# 第 17 回日本在宅医学会大会　シンポジスト　抄録集・ホームページ掲載用原稿

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| シンポジウムテーマ | 公募演題「実践的在宅医療～若き Dr の取り組み～」 | | | | | |
| 開催日 | 2015 年 4 月 25 日(土) | 時間 | 15:20-16:50 | 収容人数 | 150 名 | |
| 講師情報 | ふりがな | 姓 | おかだ | 名 | たくや | |
| | ご芳名 | | 岡田 | | 拓也 | |
| | ご所属 | 岡田医院在宅医療部 | | | | |
| | 部署 | | | 役職 | | |

**演題名**(80 字以内)

今後の在宅医療に若手医師が参加するために（私自身の経験から）

**ご略歴**(300 字以内)

平成 10 年　成蹊大学法学部法律学科卒業

平成 18 年　聖マリアンナ医科大学卒業

同年　慶応義塾大学初期臨床研修プログラム　研修開始

平成 20 年　同初期臨床研修終了

平成 20 年　済生会中央病院内科後期研修医　勤務

平成 21 年　聖マリアンナ医科大学代謝内分泌内科　任期付助教

平成 22 年　岡田医院在宅医療部　常勤医師

**講演概要**(1000 字以内)

目的

現在の在宅医療は、個人開業医、緩和医療へ従事している医師が中心となっているが、そのほかの医師にも在宅医療への参加をしてもらうことが、今後の在宅医の増加には不可欠であると考える。特に急性期治療や先進医療に従事する若手医師の在宅医療への参加を推進させるためにどのようなことが必要かを自分自身の経験と実際の取り組みを紹介する。

方法

私自身が在宅医療に従事する大きなきっかけとなったのは、退院マネジメントの重要性を痛感し、自分自身が最大限それに関わり患者が望む場所での看取りまで行えることに在宅医療の魅力を感じたからである。この魅力を、在宅医療を十分に理解していない医師へも広げていくことが、在宅医療へかかわる医師を増やし、地域医療と基幹病院、急性期病院との連携にもつながっていくと考える。現在は当院では、初期臨床研修医の地域医療研修の受け入れを行い、退院カンファレンスへの参加やサービス担当者会議などに参加してもらうことで、実際の入院患者の退院後の生活をイメージしてもらえるようになることを行動目標として指導を行っている。

結果

初期臨床研修医から、「実際、在宅医療の現場で研修し、退院後の患者の生活状況をみて、今までは退院後の具体的な生活をイメージすることなく、病気を治すことのみを考えていた。研修で退院カンファレンスに出席をして、今後病院に戻って、患者さんが自宅へ帰る際に、どういうことが必要なのか、退院時に可能であるのかなどを今後考えていきたいと思う。」と感想が聞かれた。私が研修医を指導する際には、今後病院で診療する際も、退院時病気だけでなく、生活面の評価を行うことの重要性を理解してもらえるように心がけている。

考察

在宅医療、地域連携をより推進するために、今まで比較的在宅医療とは遠い診療科の医師や若手医師にも、積極的に在宅医療に従事する医師が自ら地域医療の重要性を広めて行くことが重要であると考える。これからも、退院カンファレンスや地域のセミナーなどを通じて病院医師へ在宅医療を理解してもらう場を今後も広げていくことで、在宅医療に魅力を感じる医師が地域にも、病院にも増えていくと考えている。それによって、在宅医療を行う医師が増えるだけでなく、地域医療を理解した病院医師も増加し結果的に地域連携の強化にもつながっていくのではないかと考える。